

人材の養成について

- ① 結核に関する特定感染症予防指針（抜粋） P 1
- ② 自治体アンケート結果（抜粋） P 2
- ③ 日本結核病学会及び日本呼吸器学会における取組み
 <渡辺参考人提出資料> P 3
- ④ 日本感染症学会における取組み
 <永井参考人提出資料> P 15
- ⑤ 指導者養成研修修了者全国会議、結核療法研究協議会
 について<加藤委員提出資料> P 36
- ⑥ 国立病院機構における取組みについて
 <（独）国立病院機構提出資料> P 38

結核に関する特定感染症予防指針（抜粋）

予 防 指 針	指針に基づく施策	議論の視点	対応策
第六 人材の養成			
一 基本的考え方			
<p>結核患者の七割以上が医療機関の受診で発見されている一方で、結核に関する知見を十分に有する医師が少なくなっている現状を踏まえ、結核の早期の確実な診断及び結核患者の治療成功率の向上のために、国及び都道府県等は、結核に関する幅広い知識や標準治療法を含む研究成果の医療現場への普及等の役割を担うことができる人材の養成を行うこととする。また、大学医学部を始めとする、医師等の医療関係職種との養成課程等においても、結核に関する教育等を通じて、医師等の医療関係職種の間での結核に関する知識の浸透に努めることが求められる。</p>	<p>○結核研究所補助（結核対策指導者養成研修）【補助金】 ○結核対策特別促進事業（結核予防技術者地区別講習会）【補助金】 ◇その他、結核研究所が行う研修事業</p>	<p>1. 結核病床、モデル病床があっても医療スタッフが不足し（医師不足、看護師の結核病床離れ）使用できないことがあるとの指摘に対応するために、学会等との連携や、卒後教育との連携をどのように図っていくかについて、検討することが必要ではないが。 2. 症例の相談体制確保のため、結核研究所、高度専門施設を中心とした広域ネットワークの構築や、既存のネットワーク（NHO、結核療法研究協議会など）の活性化の具体的な方法を検討していくことが必要ではないか。 <第16回結核部会「今後の医療のあり方に関するこれまでの議論の概要」より></p>	
二 国における人材の養成			
<p>1 国は、結核に関する最新の臨床知識及び技能の修得並びに新たな結核対策における医療機関の役割について認識を深めることを目的として、感染症指定医療機関の医師はもとより、一般の医療機関の医師、薬剤師、診療放射線技師、保健師、助産師、看護師、准看護師、臨床検査技師等に対する研修に関しても必要な支援を行っていくこととする。</p>	<p>○結核研究所補助（結核対策指導者養成研修）【補助金】 ○結核対策特別促進事業（結核予防技術者地区別講習会）【補助金】 ◇その他、結核研究所が行う研修事業</p>		
<p>2 国は、結核行政の第一線に立つ職員の資質を向上させ、結核対策を効果的に進めていくため、保健所及び地方衛生研究所等の職員に対する研修の支援に際して、検討を加えつつ適切に行っていくこととする。</p>	<p>○結核研究所補助（結核対策指導者養成研修）【補助金】 ○結核対策特別促進事業（結核予防技術者地区別講習会）【補助金】 ◇その他、結核研究所が行う研修事業</p>		
三 都道府県等における結核に関する人材の養成			
<p>都道府県等は、結核に関する研修会に保健所及び地方衛生研究所等の職員を積極的に派遣するとともに、都道府県等が結核に関する講習会等を開催すること等により保健所及び地方衛生研究所等の職員に対する研修の充実を図ることが重要である。さらに、これらにより得られた結核に関する知見を保健所等において活用することが重要である。また、感染症指定医療機関においては、その勤務する医師の能力の向上のための研修等を実施するとともに、医師会等の医療関係団体においては、会員等に対して結核に関する情報提供及び研修を行うことが重要である。</p>			

自治体アンケート結果（抜粋）

「第六 人材の養成」

集計状況

132 自治体に送付し、105 自治体より返答があった。都道府県は 47 都道府県中 36 都道府県より返答があり、その他の自治体は 85 自治体中 69 自治体より返答があった。47 都道府県中都道府県および都道府県内の全自治体から返答があったのは 34 でその占める人口は 12751 万人の日本人口のうち 6716 万人で 53%あった。

結果

表 3 5. 医療、福祉従事者に対して、結核研修事業を行っているか

行っている	69
行っていない	33

医療福祉従事者に結核研修を行なっている自治体は返答のあった 102 箇所中 69 箇所と多く(表 35)、その研修評価方法は表 36 のように、アンケートが多いが、立ち入り調査などの際に実地で状況を視察などの返答もあった。

表 3 6. 結核研修の評価方法

アンケート	40
ヒアリングなど	9
立入調査時など実地で	3
疫学情報	2
その他	2

◎ 日本呼吸器学会の結核・抗酸菌症教育に関する活動

日本呼吸器学会は歴史的には日本結核病学会が母体であり、昭和36年(1961)に結核病学会から分離して日本胸部疾患学会として設立され、その後、日本呼吸器学会と改称した。しかし、現在では会員の約4分の1しか結核病学会に加入していないことに象徴されるように会員の結核離れが進んでいる。この事態を憂慮して1997年より日本結核病学会との共同企画としての教育的シンポジウムを学術講演会時に行っており、毎回200~300名の受講があり、盛況である。このことは若い呼吸器科医が結核・抗酸菌症に関する知識を要求している表れでもあり、教育機会を増やすことは重要なことであると考えられる。

平成19年の総会からは「結核講習会」の名称をかかげ、受講証を発行したが、なにもメリットがないため、インパクトに欠けた。

日本呼吸器学会は平成19年度からICD制度協議会に加盟したので、申請の都合上、平成20年の第48回学術講演会時にICD講習会を開催することとなった。第48回では呼吸器学会として最初のICD講習会であったこともあり、また、大きな会場を準備したことも手伝って受講者は1,000名に達した。

以下に最近数年間の呼吸器学会での結核に関する講習会のプログラムを示す。

- 第47回 日本呼吸器学会学術講演会 東京 平成19年
 結核講習会(日本結核病学会との共同企画) 正確な受講者数は不明 約300名
 テーマ: 未来に繋がる結核対策
 座長: 貫和 敏和(東北大学呼吸器内科)
 森下 宗彦(愛知医科大学メディカルクリニック呼吸器内科)

1. 感染症法に統合される結核対策
 結核予防法が廃止され、感染症法に統合されることになった理念と結核対策の変更点を解説
 加藤 誠也 (結核研究所)
2. 結核を含む院内感染対策
 院内感染としての結核対策を一般細菌の感染対策と対比して、困難な点や注意する点などを解説
 國島 広之 (東北大学大学院 感染制御・検査診断医学)
3. 結核院内感染対策の実情 -全国アンケートを中心にして-
 結核院内感染対策の実情を今年の全国主要病院アンケート調査に基づき解説
 飯沼 由嗣 (京都大学医学部附属病院感染制御部)
4. そこが知りたい結核の臨床
 一般病棟で抗酸菌排菌患者が出た時の具体的対応、保健所への届け出、鑑別診断、クオンティフェロンの役割と限界、非結核性抗酸菌症、抗TNF- α 薬投与との関係、その後のfollow upなどについて解説
 鈴木 克洋 (国立病院機構近畿中央胸部疾患センター)
5. 新しい抗結核ワクチン
 現在開発中の新しい抗結核ワクチンについて解説
 岡田全司 (国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター)
6. 新規抗結核薬の開発
 新しい抗酸菌治療薬の開発状況を解説

土井 教生 (結核予防会結核研究所)

●第48回 日本呼吸器学会学術講演会 神戸 平成20年
ICD講習会 (日本結核病学会との共同企画) 受講者は1,000名

テーマ: 結核の最新事情

座長: 工藤 翔二 (日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍内科部門)
岸 不盡彌 (北海道社会保険病院呼吸器科)

1. 結核の現況と予防 (疫学: 国内、海外の状況、予防について)
倉島 篤行 (国立病院機構東京病院臨床研究部)
2. 結核予防法の廃止と感染症法への統合
加藤 誠也 (財団法人結核予防会結核研究所)
3. 結核感染の新しい診断技術
原田 登之 (財団法人結核予防会結核研究所抗酸菌レファレンスセンター)
4. 結核治療の実際
鈴木 克洋 (近畿中央胸部疾患センター感染症研究部)

●第49回 日本呼吸器学会学術講演会 東京 平成21年
ICD講習会 (日本結核病学会との共同企画) 受講者は580名

テーマ: 成人院内肺炎診療の実際

～多剤耐性菌 (MRSA, MDRP, MDR-TB) を中心に～

座長: 渡辺 彰 (東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門)
森下 宗彦 (愛知医科大学メディカルクリニック呼吸器内科)

1. 成人院内肺炎ガイドライン改訂のポイント1
～重症度区分は何を根拠にどのように改訂されたか?
関 雅文 (長崎大学感染免疫学講座 (第二内科))
2. 成人院内肺炎ガイドライン改訂のポイント2
～抗菌薬選択の基準はどのようなものか?
石田 直 (倉敷中央病院呼吸器内科)
3. 抗MRSA薬をどう使い分けるか?
松本 哲哉 (東京医科大学微生物学講座)
4. MDRPが検出されたらどうするか?
平潟 洋一 (東北大学感染制御・検査診断学分野)
5. 多剤耐性結核の治療
豊田 恵美子 (国立病院機構東京病院呼吸器内科)

●第50回 日本呼吸器学会学術講演会 京都 平成22年4月
結核講習会 (日本結核病学会との共同企画)

ICD講習会が独立したため、点数が取得できなくなった。